

(様式2-1) 社会資本総合整備計画 事後評価書(案)

1. 整備計画											
計画の名称	世界遺産「富士山」を中心とした山梨静岡交流圏域活性化計画										
計画の期間	平成27年度 ~ 平成31年度			交付対象	静岡県						
計画の目標	富士山の世界遺産登録を受け今後の交流の拡大が期待される山梨静岡交流圏域において、交流・連携の取組を通じて地域の価値を高め、豊かな暮らしを実現できる、魅力あふれる圏域づくりを進めていくことにより、将来にわたり交流圏の活性化を図る。										
計画の成果目標(定量的指標)											
<ul style="list-style-type: none"> 山梨静岡交流圏域における入込観光客数を103,208千人(H25)から108,974千人(H31)に増加(5,766千人(5.6%)の増加) 上記のうち、静岡県内における入込観光客数を72,440千人(H25)から76,487千人(H31)に増加(4,047千人(5.6%)の増加) 											
※「静岡県観光交流の動向」より											
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値				備考			
				当初現況値	中間目標値	最終目標値					
				(H25当初)	(H29末)	(H31末)					
①	山梨静岡交流圏域における観光入込客の増減率 (山梨静岡交流圏域における入込観光客の増減率) = (評価時点の年間入込観光客数 - H25の年間入込観光客数) / (H25の年間入込観光客数)			103,208千人	106,998千人	108,974千人	※山梨静岡交流圏域： (山梨県) 峡南地域、東部・富士地域 (静岡県) 伊豆地域、富士地域				
②	上記のうち、静岡県内における観光入込客数 (静岡県内における入込観光客の増減率) = (評価時点の年間入込観光客数 - H25の年間入込観光客数) / (H25の年間入込観光客数)			72,440千人	75,100千人	76,487千人	※伊豆中南部半島振興地域： 下田市、伊豆市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、沼津市の一部区域(旧戸田村の区域)				
③											
全体事業費	合計(A+B+C)	3,809百万円	A	3,809百万円	B	C	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)				
事業種別	主な交付対象事業	要素となる事業名(事業箇所)			事業内容(延長・面積等)		市町名	全体事業費(百万円)	備考		
広域連携		(主) 大岡元長窪線 長泉町下長窪			バイパス L=0.36km		長泉町	548			
事業数		(一) 白糸富士宮線 富士宮市下条			バイパス L=1.3km		富士宮市	415			
21		田子の浦港(鈴川地区)			緑地 A=2.0ha		富士市	187			
2. 事業の進捗状況 (○：計画期間中に完成 △：計画期間終了後に完成見込 -：その他(備考欄に具体的に記入(中止、未実施等)) (計画期間中に他の整備計画に移行したもので、●：本計画の期間中に完成 ▲：本計画の期間終了後に完成見込)											
計画の移行なし	○	12	△	9	-	備考	計画の移行あり	●	▲		
3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況											
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況											
<ul style="list-style-type: none"> 道路事業では、(一) 仙石原新田線(裾野市深良)の現道拡幅や、(一) 富士富士宮線(富士宮市上井出)の電線共同溝整備(無電柱化)等が概ね計画どおりに完了し、拠点施設のアクセス性や観光地の魅力を高めた。 港湾事業では、陸上交通及び海上交通のボトルネックを解消するための臨港道路の整備や航路改良に加え、富士山を望みトイレや無料の駐車場を完備する緑地(「鈴川海浜スポーツ公園」と命名)を整備し、観光地の魅力を高めた。 <p>以上により、山梨静岡交流圏における観光入込客数の増加に寄与した。</p>											
II 定量的指標の達成状況	指標①(山梨静岡交流圏域における観光入込客の増減率)	最終目標値	108,974千人	目標値と実績値に差が出た要因	交付対象事業の進捗に加え、平成25年に世界文化遺産に認定された富士山への根強い人気もあり、観光入込客数が増加した。(8,858千人(14.2%)の増加)						
		最終実績値	117,832千人								
	指標②(上記のうち、静岡県内における観光入込客数)	最終目標値	76,487千人	目標値と実績値に差が出た要因							
		最終実績値	76,220千人								
指標③()	最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因								
	最終実績値										
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況											
<ul style="list-style-type: none"> 現道拡幅や無電柱化等により、円滑で安全な交通が確保された。 港湾緑地整備によって、地域住民の憩いの場やスポーツ・健康活動の場として、また、サイクリストの休憩所としても活用がなされるなど、市民の精神面や健康面を支える交流の場としても機能している。 											
4. 今後の方針等											
アフターコロナの観光需要増加も見据え、引き続き、各事業の進捗を図ることで、交通・環境・防災等の面から本交流圏の活性化を図る。											